



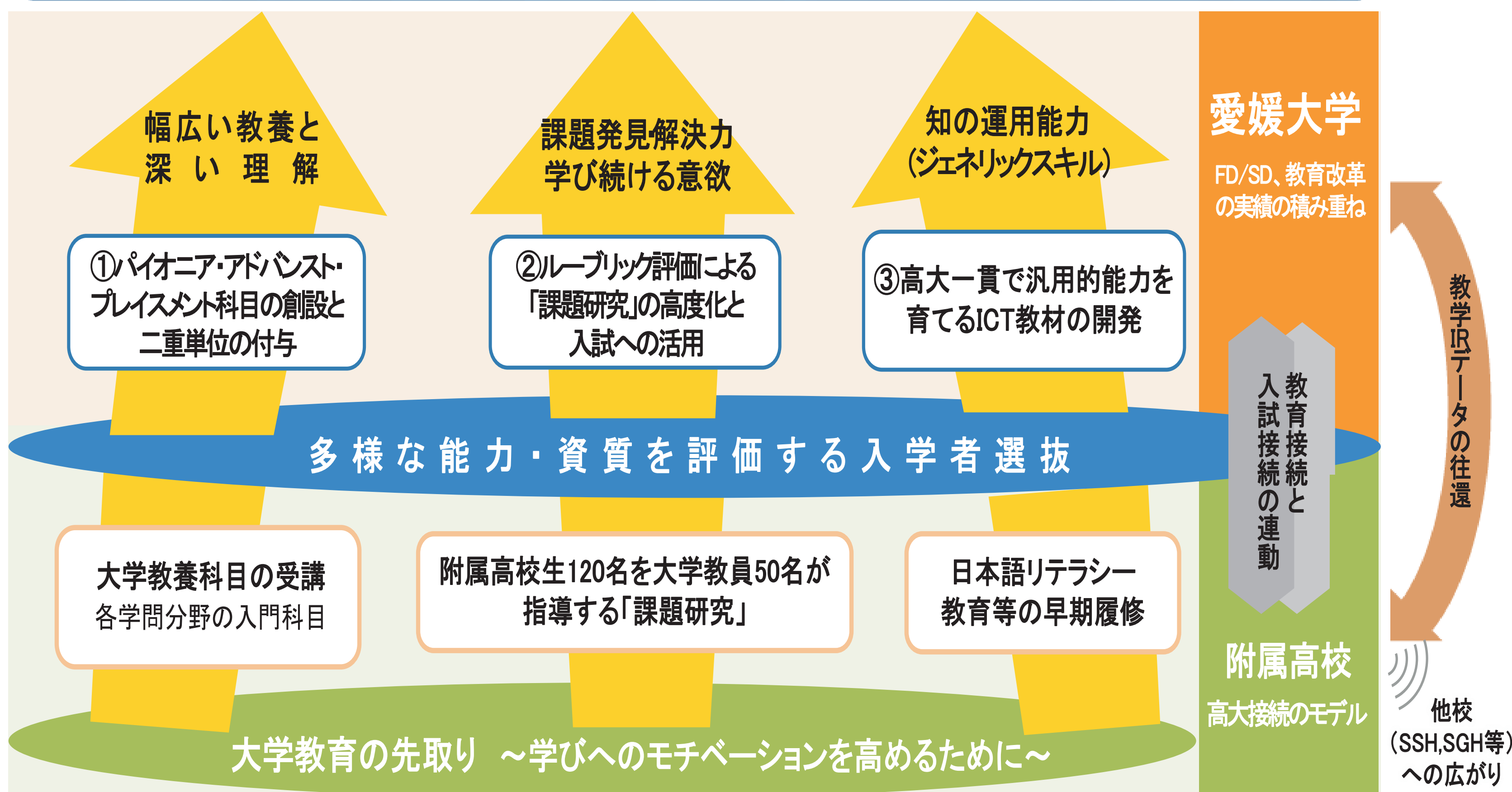
事業の目標

本事業は、愛媛大学附属高校をモデルとして取組んできた大学・高校教育の円滑な接続方法の研究・開発を進展させ、高校段階で“学びへの意欲”を高めることによって大学における“深い学び”を確保し、大学教育の到達点の高度化を目指す。さらに、本学附属高校をモデルとして取組んだ成果を他校への拡がりを目指す。

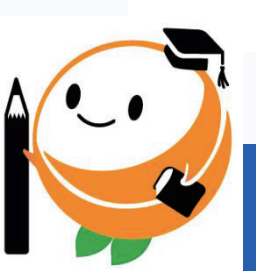
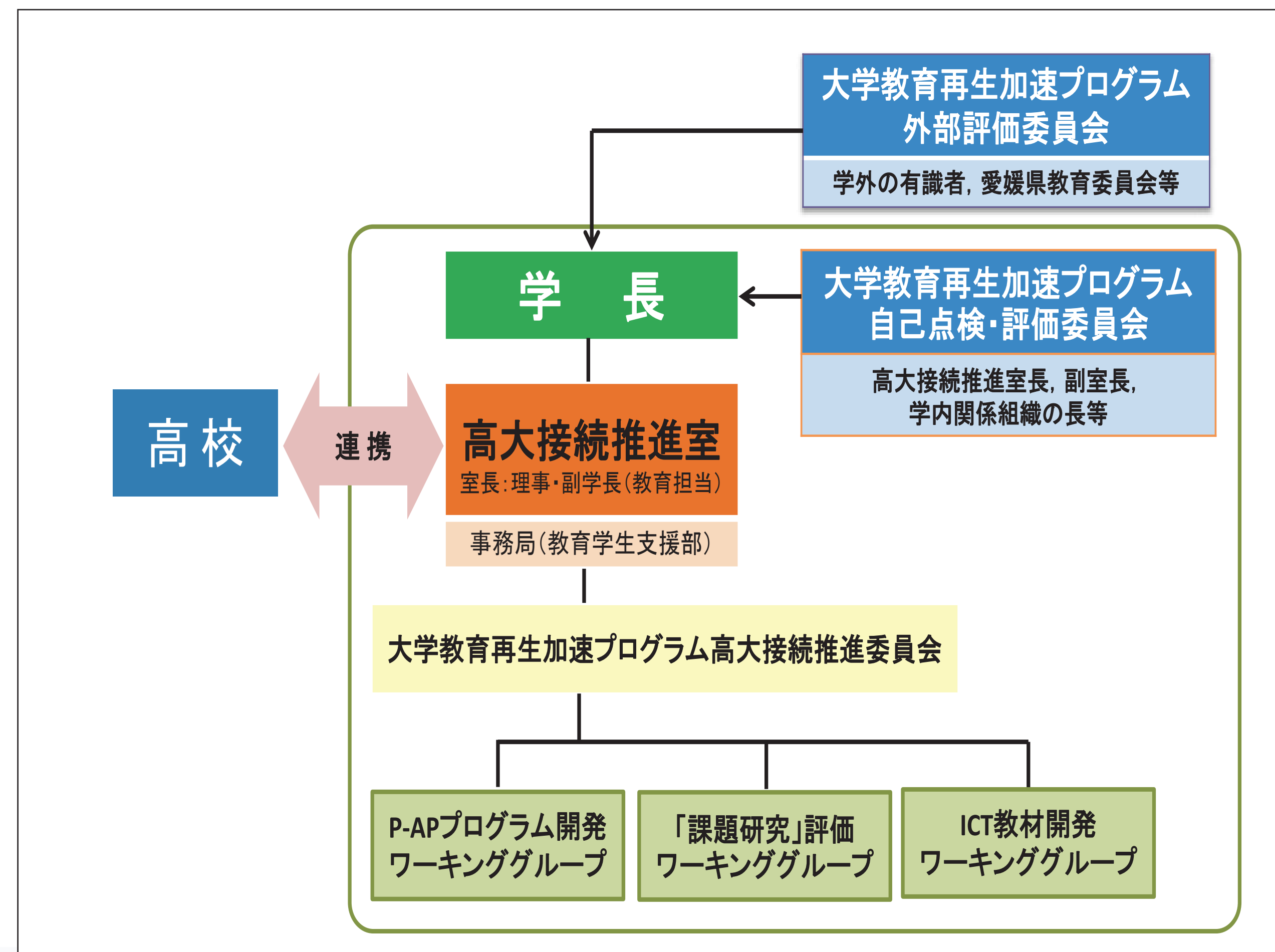


取組概要

大学教育の到達点の高度化
～早期の“動機付け”から“深い学び”へ～



実施体制



① P-APプログラム

「高大接続授業」では、大学教育の先取りによる学ぶ意欲の向上と大学教育の高度化を図るため、高校生に対して、大学レベルの授業を受講する機会を提供している。

審査を経て「高大接続科目等履修生」となった高校生は、本学で開講する授業に毎週出席し、所定の成績判定基準により、本学の単位が付与される。大学入学後は、当該大学の判断により、既修得単位として扱うこともできる（学内規程等を改正して平成28年度から実施）。

当該生徒が在籍する高校においては、高校長の判断により、学校外における学修の単位として認定ができる。

高大の二重単位付与を可能とした取組は、全国的にも数少ない取組である。

令和元年度 高大接続科目

生活科学入門	生物学入門
政策科学入門	地学入門
物理学入門	初修外国語
物理学入門	数学入門
化学入門	ことばの世界



② 課題研究のルーブリック評価



ウェブサイトへ

「課題研究」簡易ルーブリック(プロセス評価)

この評価基準は、課題研究を行っている途中で、テーマ設定、研究手法、取組状況、グループの各観点から評価を行うことを想定しているものです。この評価基準に該当しない評価観点については、評価をしなくても構いません。

領域	評価観点	評価尺度			コメント
		5(S)～4(A)	3(B)	2(C)～1(D)	
テーマ設定	先行研究	研究テーマに関連する先行研究の文献や資料を丹念に調べている。	研究テーマに必要な先行研究の初歩的な文献や資料を調べている。	研究テーマに必要な先行研究を多少調べたものの、これまで研究されてきた内容を十分把握できていない。	
	課題意識と発展性	学術的・社会的な課題意識を反映したテーマで研究に取り組もうとしている。	学術的・社会的な課題意識はあるが、テーマとしては目新しいくない。	学術的・社会的な課題意識から考えたよりも、表面的な発想からテーマ設定を行っている。	
研究手法	計画・準備と進捗状況	実施上の日程計画や方法を進んで担当教員に相談・報告し、研究を主体的に進めている。	実施上の日程計画や方法に遅れはあってもおおむね計画どおりに進んでいる。	見通しを持たないままその場の成り行きで行っているため、計画どおりに進めることができていない。	
	研究方法の妥当性	研究目的を達成するのに現実性のある研究方法が具体的に考えられている。	研究目的に照らして研究方法を検討しているが、実行には再考の余地がある。	研究方法は考えているが、研究目的を達成するには不十分である。	
取組状況	好奇心・興味関心・探究心	高い課題意識で研究を進め、研究テーマの探求により発展性がみられる取組となっている。	研究を進めるにつれて興味を抱く事柄に出会えたため、関心をもって研究テーマに取り組んでいる。	研究を進める中であまり興味を抱く事柄に出会えなかったため、進んで研究テーマを深めるところまでいっていない。	
	創意工夫・オリジナリティ	先行研究を踏まえながら、調べた資料やデータを自分なりに解釈し、独自のアイデアを導き出そうとしている。	調べた資料やデータを自分なりに解釈し、自分の言葉で説明しているが、解釈が先行研究に引きずられている面もある。	調べた資料やデータの解釈が不十分であったり、先行研究の丸写しであったりする。	
1グループ	役割分担と協力	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループ研究に貢献している。	自分の役割はおおむね果たしているが、他のメンバーへの貢献は十分に果たせていない。	自分の役割を果たせず、グループの他のメンバーに頼りすぎている。	



③ ICT教育教材

高校から大学への教育の一貫性を高め、汎用的能力を育成するために、愛媛大学で初年次の基礎教育科目としてすでに開講されている「日本語リテラシー入門」や「情報リテラシー入門」を参考にして、ICT教材を新たに開発するとともに、開発した教材を用いて、附属高校にて教育実践する。

【開発・運用教材】

日本語リテラシー、情報、化学、学修観アンケート、プレゼンテーションスキル 等



iPadで問題に取り組む生徒「日本語リテラシー」



eラーニング教材問題例「日本語リテラシー」

「能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜」を行うため、汎用性の高い評価ツールとして、高等学校教員と大学教員との協働によってプロセス評価、課題発表評価（それぞれ詳細版と簡易版の2種類）のルーブリック評価表を開発した。

また、生徒や教員が使う際のポイント等をまとめた課題研究ルーブリック評価の活用マニュアルを作成した。これらの活用によって「課題研究」の高度化を図る。



プログラムの成果検証として日本語検定3級(高校卒業程度レベル)を受検。平成29年度『全国高等学校国語教育研究連合会賞最優秀賞』を受賞。

